

要約 京都の経営経済動向調査結果 (2010. 10. 7)

—2010年7～9月期実績と2010年10～12月期及び2011年1～3月期予想—

京都商工会議所
担当：中小企業経営相談センター
電話 (075) 212-6467

業況は大企業・中小企業とも低調に推移

～受注・売上不振や価格下落に加え、円高など先行き不透明感が強まる～

概要

持ち直しを続けてきた自社業況は、今期、受注・売上の不振や製品・商品価格の下落に加え、急速な円高の進行による企業収益悪化への不安などもあって大企業、中小企業とも下降し、全体では▲7.9と精彩を欠く結果となった。前期3年ぶりにプラスとなった国内景気についても、今期▲8.4と再びマイナスへと転じ、また先行き不透明感から、今後の見通しについても慎重な見方が強まっている。

一方、持ち直しを牽引してきた大企業製造業では、一般機械、電気機械、化学・ゴムといった業種を中心に比較的堅調な回復が見られており、業種・規模によるまだら模様はあるものの、全体として持ち直し基調は持続している。

(注) 8月下旬から9月上旬にかけ同調査を実施し、610社中510社から回答を得た(対象は、京都府内に本社、本店を持つ企業)。また7～9月期のBSI値は、2010年4～6月期の景況感を基準に強気なら「プラス」、弱気なら「マイナス(▲)」で表している。算出方法は、上昇回答から下降回答を差し引き、2分の1を乗算。

I 国内景気動向

7～9月期のBSI値は、▲8.4(前期実績3.5)と下降し、一転して慎重な景況感となった。今後についても下降傾向で推移する見通しとなっており、先行き回復への期待に慎重な見方が広がっている。

II 企業経営動向

自社業況(総合判断) 7～9月期のBSI値は、▲7.9(前期実績▲1.9)と下降幅がやや広がり、持ち直しのテンポに鈍化が見られた。今後、10～12月期はほぼ横ばいを見通すものの、2011年1～3月期にかけて▲10.4とさらにマイナスを予想し、業況は先行きについても精彩を欠く見通しとなっている。

※自社業況(総合判断)は、以下に続く「生産・売上高、工事施工高」から「資金繰り」までの6項目を総合的に判断したもの。

1. 生産・売上高、工事施工高 7～9月期のBSI値は、▲7.7と減少傾向で推移した。今後の見通しについて業種別に見ると、10～12月期は、季節的要因もあって小売業や運輸・倉庫業、旅館・ホテルなどのサービス業や不動産業、食料品、出版・印刷、化学・ゴムといった製造業で増加する一方、続く2011年1～3月期はほとんどの業種で再び減少する見通しとなっている。
2. 製・商品・サービス・請負価格 7～9月期のBSI値は、▲7.7と下降を続けた。今後の見通しについて業種別に見ると、10～12月期はサービス業の旅館・ホテル、料理・飲食や製造業の

鉄鋼、繊維製品と卸売業の機械金属卸などの一部業種で上昇するものの全体としては下降を続け、続く2011年1～3月期は建設業や旅館・ホテル、その他サービス業などのサービス業、運輸・倉庫業、卸売業の食料品卸や製造業の繊維、窯業・土石など多くの業種で下降を続ける見通しとなっている。

3. 経常利益 7～9月期のBSI値は、▲10.8と、減益傾向で推移した。今後の見通しについて規模別に見ると、10～12月期は大企業では増益を見通す一方、中小企業ではほぼ横ばいを見通しており、続く2011年1～3月期はともに減益を見通すものの中小企業の厳しい見方が目立ち、規模間で差が見られる。
4. 所定外労働時間 7～9月期のBSI値は、▲2.8と減少を続けた。今後の見通しについて業種別に見ると、10～12月期は季節的要因もあって運輸・倉庫業や不動産業、旅館・ホテル、その他サービス業などのサービス業をはじめ建設業など幅広い業種で増加を予想する一方、続く2011年1～3月期は、運輸・倉庫業や小売業、食料品卸、食料品製造などの食料品関係をはじめ、サービス業の旅館・ホテル、その他サービス業など多くの業種で減少する見通しとなっている。
5. 製・商品在庫 7～9月期の製・商品在庫は、「適正」とする企業が77.4%と概ね適正水準で推移したが、一部に過剰感が見られた。業種別に見ると、繊維製造、繊維卸、繊維製品製造、窯業・土石など繊維関係と製造業の一部で過剰感が見られた。今後は、繊維関係と窯業・土石ではやや過剰感が残るものの、全体としてやわらぎ、概ね適正水準で推移する見通しとなっている。
6. 資金繰り 7～9月期のBSI値は、▲4.7と幾分悪化した。今後の見通しについて規模別に見ると、大企業、中小企業ともに悪化傾向で推移するものの、中小企業は大企業に比べて悪化幅が大きく、先行きについて規模間で差が見られる。

Ⅲ 当面の経営上の問題点

「受注・売上げ不振」(65.5%)が前回に続き第1位になった。第2位は「過当競争」(34.3%)、第3位に「製・商品(請負)価格安」(31.0%)、第4位に「人件費負担増大」(15.9%)、第5位に「原材(燃)料高」(13.9%)が続いた。第4位の「人件費負担増大」は前回5位から順位を上げ、第5位の「原材(燃)料高」は前回4位から順位を下げた。また、円高の進展を受けて、前回10位の「為替問題」(11.6%)が第6位へと順位を上げた。

国内景気	実績			予想						
	2010年7～9月期			2010年10～12月期			2011年1～3月期			
	B.S.I.値	上昇	下降	B.S.I.値	上昇	下降	B.S.I.値	上昇	下降	
総計	▲ 8.4	14.2	30.9	▲ 8.5	15.1	32.1	▲ 8.1	13.1	29.2	
規模別	大企業	▲ 2.1	15.9	20.0	▲ 12.2	13.2	37.5	▲ 4.9	13.9	23.6
	中小企業	▲ 10.8	13.6	35.2	▲ 7.1	15.8	29.9	▲ 9.3	12.8	31.4
業種別	製造業	▲ 6.3	18.7	31.3	▲ 8.4	16.4	33.2	▲ 4.4	15.7	24.5
	卸売業	▲ 8.9	11.3	29.0	▲ 8.9	12.9	30.6	▲ 14.5	8.1	37.1
	小売業	▲ 14.6	4.2	33.3	▲ 23.0	8.3	54.2	▲ 18.8	0.0	37.5
	建設業	▲ 12.9	5.7	31.4	▲ 5.7	17.1	28.5	▲ 14.3	5.7	34.3
	不動産業	▲ 20.0	10.0	50.0	▲ 12.5	5.0	30.0	▲ 7.5	20.0	35.0
	運輸・倉庫業	▲ 7.4	7.4	22.2	▲ 7.4	3.7	18.5	0.0	11.1	11.1
	サービス業	▲ 8.0	11.8	27.7	▲ 4.7	20.0	29.3	▲ 12.0	14.7	38.7

自社業況 (総合判断)	実績			予想						
	2010年7～9月期			2010年10～12月期			2011年1～3月期			
	B.S.I.値	上昇	下降	B.S.I.値	上昇	下降	B.S.I.値	上昇	下降	
総計	▲ 7.9	20.6	36.3	0.8	27.9	26.4	▲ 10.4	14.3	35.0	
規模別	大企業	▲ 4.2	20.4	28.8	4.3	31.4	22.8	▲ 1.5	21.4	24.3
	中小企業	▲ 9.3	20.6	39.2	▲ 0.7	26.5	27.8	▲ 13.9	11.4	39.2
業種別	製造業	▲ 4.8	24.8	34.4	▲ 2.1	26.5	30.7	▲ 9.3	15.7	34.2
	卸売業	▲ 6.6	19.6	32.8	2.4	27.8	23.0	▲ 14.0	9.8	37.7
	小売業	▲ 20.9	4.2	45.9	2.1	25.0	20.8	▲ 14.6	4.2	33.3
	建設業	▲ 2.9	20.6	26.4	▲ 5.9	17.6	29.4	▲ 10.3	11.8	32.4
	不動産業	▲ 18.5	10.5	47.4	10.6	31.6	10.5	▲ 2.6	21.1	26.3
	運輸・倉庫業	▲ 15.4	11.5	42.3	5.8	30.8	19.2	▲ 17.3	0.0	34.6
	サービス業	▲ 12.7	17.3	42.7	7.5	36.5	21.6	▲ 9.6	20.6	39.7

※ B.S.I.値 = (上昇 [増加、他] - 下降 [減少、他]) × $\frac{1}{2}$